

# 木曾福島地区来訪者に対するアンケート調査 —権兵衛トンネル開通の影響を考慮して—

Analysis of Attractive points to visitors at Kiso-Fukushima district from the questionnaire  
—Effect of the opening of the Gonbee tunnel—

鈴木尚通・佐藤 進

## 目次

### 1. 序

### 2. 調査結果の分析

### 3. まとめ

### 付録. アンケート調査票

## 1. 序

2006年8月6日(日)、長野県木曾町において、木曾町街作り推進課の協力を得て、ゼミ活動の一環として、木曾福島地区来訪者に対する第2回目のアンケート調査を行った。天候は晴れで、気温は30℃以上に上がったと思われる。アンケート調査はまず、12時頃から14時30分頃まで行い、1時間休憩後、15時30分頃から16時30分頃まで行った。\*)

調査開始時刻がちょうどお昼時であったので、木曾町にある飲食店(おそばや)前で順番待ちをしている方々にもアンケート調査に協力して頂いた。

前回の調査は2005年7月23日(日)御輿祭りの最終日に行われた。そのために、質問「この地域で楽しんだこと(無料)」に対する回答は、「祭り・行事」が最も多く、長野県内からの来訪者38.7%、長野県外からの来訪者の33.3%もあった。今回はお祭りを見るなどという特定の目的を持たないであろう8月のお盆休みの前の日曜日に調査日を設定した。調査項目は、基本的には前回のものを踏襲したが、前回のアンケート調査の中で、複数回答をお願いする際、「いくつでも可」としたところを今回は「3つまで選択」に変え、回答数に制限を付けた。また、国道361号線沿いの観光スポットの選択肢の中で、前回は「スキー場(施設名 )」としてあったところを、スキー場名を明記して選択肢の中に入れるようにした。さらに、伊那谷と木曾谷を結ぶ権兵衛トンネルが2006年2月に開通したことを受けて、「権兵衛トンネルを通過してきたか」、「権兵衛トンネルを通る予定か」を質問事項に追加した。

アンケートに答えてくださった方は84人で、性別は男性44(52.4%)、女性36(42.9%)、無回答4(5.0%)であった。来訪者の居住県は、長野県22人、愛知県23人、岐阜県2人、静岡県6人、その他(都道府県)30人、無回答1人であった。

長野県からの来訪者22人の中で、居住市町村名を記入された方は、松本市7人、長野市2人、上田市、伊那市、宮田村各1人の合計12人であった。

前回の調査では80票の回答を得て、長野県内からの来訪者(31人)と長野県外からの来訪者(45人)に分けて集計した。今回は、権兵衛トンネル開通の影響が地理的にどの程度まで広がっているかを見ることも考慮して、主な回答項目に対して、長野県内(22人)、長野県近隣の3県(愛知県、静岡県、岐阜県)(31人)とその他都道府県(30人)に分けてクロス集計を行った。

その他都道府県の内訳は、東京都6、大阪府5、千葉県3、山梨県3、神奈川県2、奈良県2迄が2人以上で、北海道、茨城県、滋賀県、京都府、三重県、島根県、広島県、香川県各1人であった。

## 2. 調査結果の分析

以下では、アンケート項目に対する回答を、長野県からの来訪者(22人)、近隣3県(愛知、静岡、岐阜)からの来訪者(31人)、その他都道府県(30人)の3つの居住地域に分けて解析し、図または表の中では、それぞれ、長野県、愛知他、その他と表示する。

項目によっては全84票を単純集計した上で、居住地域別地域別の集計を分析した。

\*) 本論文の内容の一部は日本観光学会第95回全国大会(2007年6月、東京大学)において発表された。

図1に居住地別の男女比を示す。長野県は22人中、男性72.7%（16人）、女性27.3%（6人）と男性の方が女性の2倍以上であった。近隣3県は31人中、男性45.2%（14人）、女性51.6%（16人）、無回答3.2%（1人）%、其他都道府県は30人中、男性43.3%（13人）、女性46.7%（14人）、無回答10.0%（3人）と、近隣3県と其他都道府県では男女の比率はあまり変わらない。

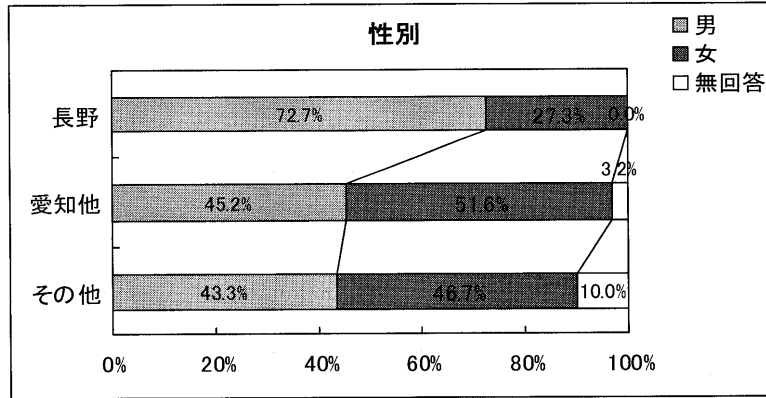


図1. 居住地別の男女比.

図2に年齢層別の集計結果を示す。来訪者の最も多い年齢層は、長野県30歳代36.4%（8人）、近隣3県40歳代29.0%（9人）、其他都道府県50歳代36.7%（11人）と長野県から地理的に遠くなるほど年齢層があがる傾向にある。50歳以上の来訪者を比較すると、長野県27.3%（6人）、近隣3県38.7%（12人）、其他都道府県70.0%（21人）と、やはり長野県から遠くなるほど50歳以上の来訪者の比率が高まっている。

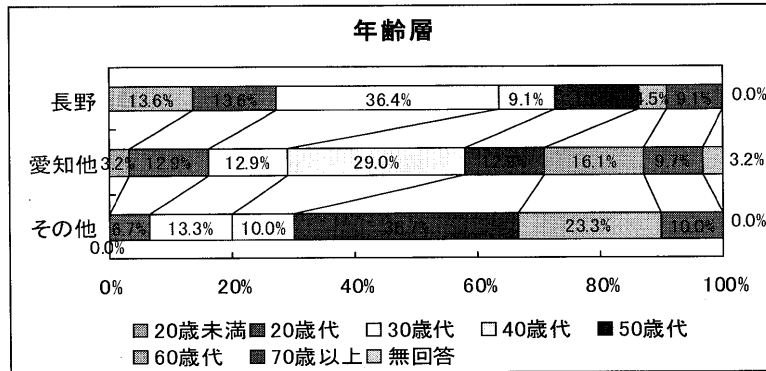


図2. 来訪者の年齢層.

来訪者の旅行日程を図3に示す。長野県からの来訪者は、日帰り77.3%（17人）、1泊2日と2泊3日がともに9.1%（2人）であった。近隣3県は、日帰り32.3%（10人）、1泊2日51.6%（16人）、2泊3日12.9%（4人）と、宿泊を伴う人が約2/3、日帰りが1/3で、2泊3日以上の人はいなかった。其他都道府県からは日帰り13.3%（4人）、1泊2日43.3%（13人）、2泊3日以上40.0%（12人）と、宿泊を伴う人が83.3%を占め、しかも2泊3日以上の人が1泊2日と同程度の比率を占めている。長野県から居住地が遠くなるにつれて宿泊をする比率、及び連泊をする比率が高くなっている。

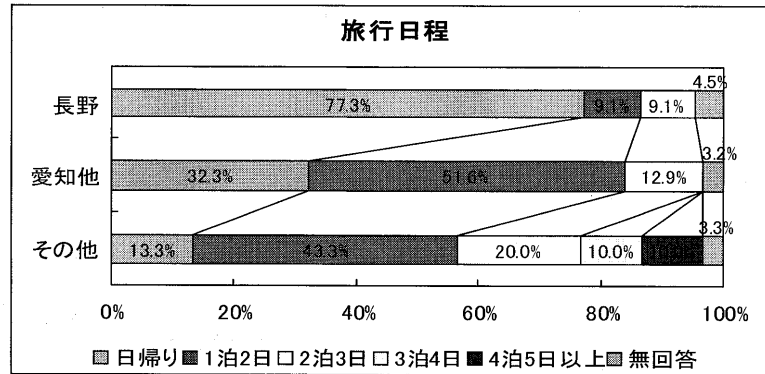


図3. 来訪者の旅行日程.

来訪者の木曽福島地区における滞留時間を図4に示す。2時間以上滞留する人は、長野県では31.8% (7人)、近隣3県では45.2% (14人)、其他都道府県では50.0% (15人)と、長野県から遠くなり、宿泊を伴う比率が高いほど、滞留時間も長くなる傾向にある。

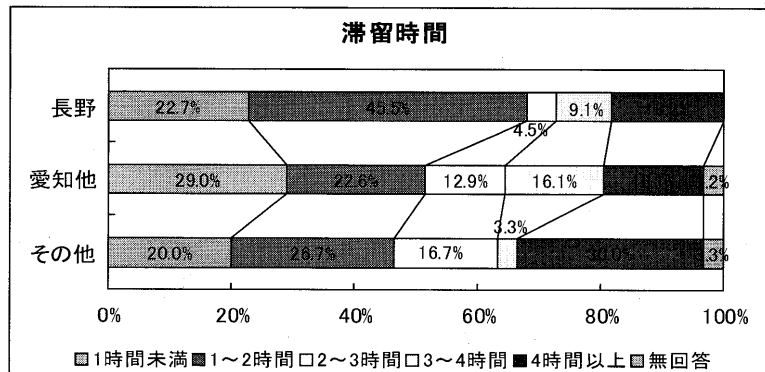


図4. 来訪者の滞留時間.

長野県内からの来訪者の旅行相手は、家族 (子連れ) 22.7% (5人)、家族 (大人のみ)、夫婦および知人友人がともに18.2% (4人)の順となっている (図5参照)。近隣3県からの来訪者の相手は、知人友人32.3% (10人)、家族 (子連れ) 19.4% (6人)、単独と家族 (大人のみ) がともに12.9% (4人)、其他都道府県からの来訪者は知人友人40.0% (12人)、夫婦26.7% (8人)、単独13.3% (4人)の順となっている。

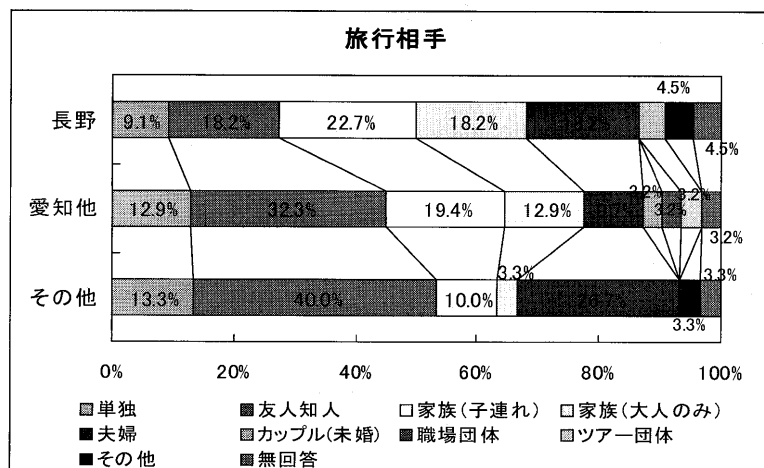


図5. 来訪者の旅行相手.

来訪者の交通手段を図6に示す。長野県内からは、マイカー68.2%（15人）、自転車、観光バス、鉄道(JR)がいずれも9.1%（2人）であった。近隣3県からは、マイカー45.2%（14人）、鉄道(JR)32.3%（10人）、観光バス19.4%（6人）、その他都道府県からは、鉄道(JR)53.3%（16人）、マイカー33.3%（10人）、中央高速バス10.0%（3人）の順であった。

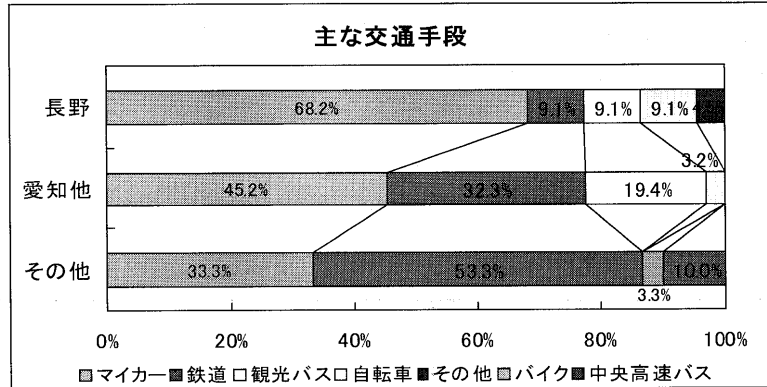


図6. 来訪者の主な交通手段.

権兵衛トンネルを通過してきた人は、長野県の45.5%（10人）、近隣3県の16.1%（5人）、その他都道府県の30.0%（9人）であった（図7a参照）。権兵衛トンネルを帰路に通る予定の人は、長野県36.4%（8人）、近隣3県16.1%（5人）、その他6.7%（2人）であった（図7b参照）。

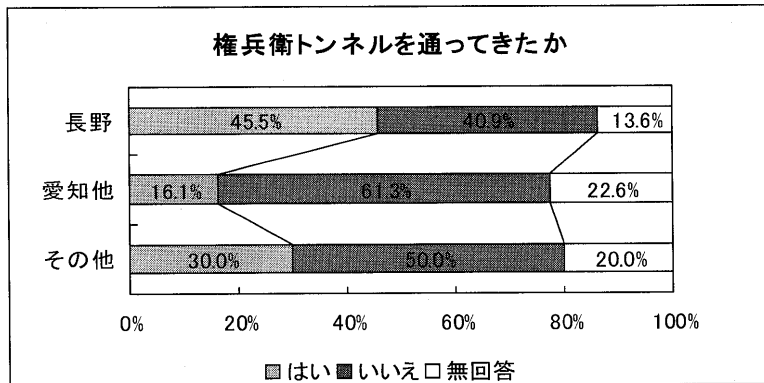


図7a. 権兵衛トンネルを通過してきたか.

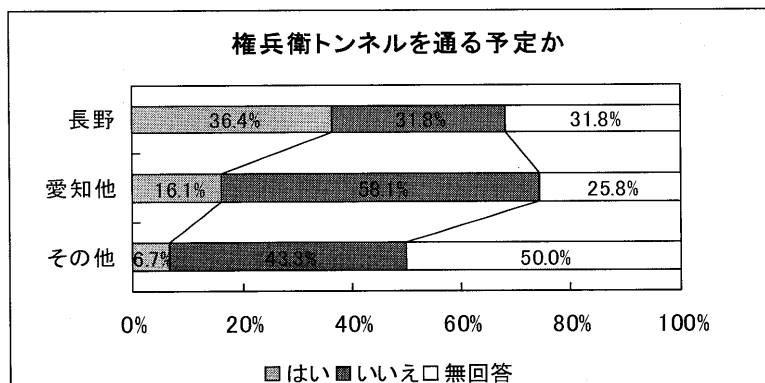


図7b. 権兵衛トンネルを通る予定か.

木曽福島地区を訪れる際に利用した主な交通手段と権兵衛トンネルを通ってきたか、また通る予定のある利用者の人数を表1に示す。これらの集計は単純集計で、往路と帰路の相関は取っていない。

長野県からの来訪者は、マイカー8人、自転車、観光バス各1人の合計10人が権兵衛トンネルを往路に利用した。帰路に権兵衛トンネルを通る予定の人は、マイカー6人、自転車、観光バス各1人の合計8人であった。

近隣3県からの来訪者は、往路の利用者は、観光バス3人、マイカーと自転車各1人の合計5人、帰路権兵衛トンネル利用予定者は観光バス2人、マイカーと自転車各1人、それに往路に鉄道(JR)を利用された、おそらく帰路に車を利用される方1人の合計5人であった。

その他都道府県からの来訪者で、往路権兵衛トンネル利用者は、マイカー4人、鉄道(JR)3人、バイクと中央高速バス1人の合計9人あったが、帰路の利用予定者は、マイカーと中央高速バス各1人の合計2人であった。

主な交通手段	長野		愛知他		その他		合計	
	往路	帰路	往路	帰路	往路	帰路	往路	帰路
マイカー	8	6	1	1	4	1	13	8
バイク	0	0	0	0	1	0	1	0
自転車	1	1	1	1	0	0	2	2
観光バス	1	1	3	2	0	0	4	3
鉄道(JR)	0	0	0	1	3	0	3	1
中央高速バス	0	0	0	0	1	1	1	1
その他	0	0	0	0	0	0	0	0
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	10	8	5	5	9	2	24	15

表1. 権兵衛トンネル利用者(往路)または利用予定者(帰路)の主な交通手段

権兵衛トンネルの利用状況をより詳しく知るために、往路に権兵衛トンネルを通ってきた人の中で、帰路にも通る予定の人数を調べてみる(表2a参照)。往路に権兵衛トンネルを通ってきた人の中で帰路も通る予定の人は、長野県と近隣3県の人の比率は高いが、その他都道府県からの来訪者はほとんどいない。

主な交通手段	長野		愛知他		その他		合計	
	往路	帰路	往路	帰路	往路	帰路	往路	帰路
マイカー	8	5	1	1	4	1	13	7
バイク	0	0	0		1	0	1	0
自転車	1	1	1	1	0	0	2	2
観光バス	1	1	3	2	0	0	4	3
鉄道(JR)	0	0	0	0	3	0	3	0
中央高速バス	0	0	0	0	1	0	1	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	10	7	5	4	9	1	24	12

表2a. 往路権兵衛トンネル利用者数とその内帰路権兵衛トンネルを利用する予定者数

長野県からの来訪者でマイカー利用者8人の内5人は、帰路も通る予定であるが、3人は無回答であった。なお、伊那方面からの来訪者(伊那市と宮田村各1人)2人は帰路も権兵衛トンネルを通る予定となっている。

近隣3県からの来訪者で観光バス利用者3人のうち2人は帰路も通るが、もう1人(静岡県在住)は、帰路に権兵衛トンネルを通る予定はない。

その他都道府県からの来訪者で、マイカーを利用し、権兵衛トンネルを通ってきた4人のうち1人だけが帰路も通る予定であった。他の3人は帰路に関しては無回答であった。鉄道利用者3人のうち、帰路に関して2人は無回答、1人は通る予定はない。また、中央高速バス利用者1人は帰路は無回答であった。

帰路に関して無回答の人が、帰路のルートを考慮中であるとする、権兵衛トンネルの開通が観光コースの選択の幅を広げた可能性がある。

帰路に権兵衛トンネルを通る予定者（15人）の中で、往路に通ってきた人数を表2bに示す。大多数（15人中12人）は往路に権兵衛トンネルを通ってきている。

主な交通手段	長野		愛知他		その他		合計	
	往路	帰路	往路	帰路	往路	帰路	往路	帰路
マイカー	6	5	1	1	1	1	8	7
バイク	0	0	0	0	0	0	0	0
自転車	1	1	1	1	0	0	2	2
観光バス	1	1	2	2	0	0	3	3
鉄道(JR)	0	0	1	0	0	0	1	0
中央高速バス	0	0	0	0	1	0	1	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	8	7	5	4	2	1	15	12

表2b. 帰路権兵衛トンネル利用予定者のうち往路権兵衛トンネルを利用した人数

木曽福島地区への来訪回数を図8に示す。

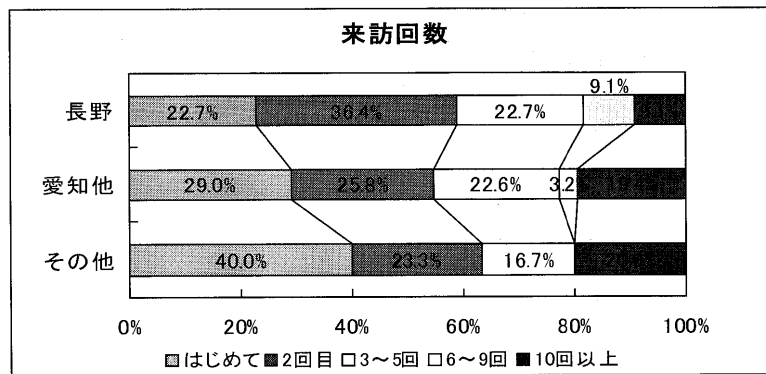


図8. 木曽福島地区への来訪回数.

長野県内からの来訪者は、2回目36.4%（8人）、はじめて22.7%（5人）、3～5回22.7%（5人）の順となっている。2回以下が59.1%、6回以上のリピータが18.2%あった。

近隣3県からの来訪者は、はじめて29.0%（9人）が最も多く、続いて、2回目25.8%（8人）、3～5回22.7%（7人）の順であった。2回以下が54.8%（15人）、6回以上のリピータが22.6%（7人）を占めている。その他都道府県からの来訪者は、はじめて40.0%（12人）が最も多く、2回目23.3%（7人）がそれに続いている。また、6回以上のリピータは20.0%（6人）を占めている。

初めての来訪者の比率は、その他都道府県が最も高く、続いて、近隣3県（愛知他）、長野県の順となっているが、2回以下の来訪者で比較すると、その他都道府県、近隣3県、長野県で、同じくらいの比率となっている。また、6回以上のリピータの比率も、これら3地域からの来訪者の間にた

いした差はない。

木曾福島地区を訪れた目的（3つまで選択）は、単純集計では、避暑（17人，20.2%）、温泉（足湯）（16人，19.0%）、飲食（13人，15.5%）、山村代官屋敷（12人，14.3%）の順であった。その他（24人，28.6%）の内訳は、御嶽山（参拝）4人，登山4人，ゴルフ2人，友人と会う2人，写真，同窓会，そばを食べる，通り道が各1人，他の8人は無記入であった。

居住地域別に見ると，長野県からの来訪者の目的は，避暑36.4%（8人），温泉（足湯）36.4%（8人），飲食22.7%（5人），産直品18.2%（4人）の順であった（図9参照）。

近隣3県は，山村代官屋敷25.8%（8人），その他25.8%（8人），飲食19.4%（6人），避暑と温泉（足湯）がともに16.1%（5人）であった。その他の内訳は，登山（お参り，御嶽山参拝各1を含む）3，ゴルフ2，写真撮影，友人とあう各1，記入なし1であった。

その他都府県は，その他46.7%（14人），避暑13.3%（4人），足湯10.0%（3人），上の段の街並み25.8%（3人）順で，初めての来訪者が40.0%（12人）を占めているせいか，木曾福島地区への関心はまだ余り高くないようだ。その他（14人）の内訳は，登山（御嶽山参り1を含む）4，友人とあう（同窓会1を含む）2，そばを食べる1，通り道1，無記入6であった。

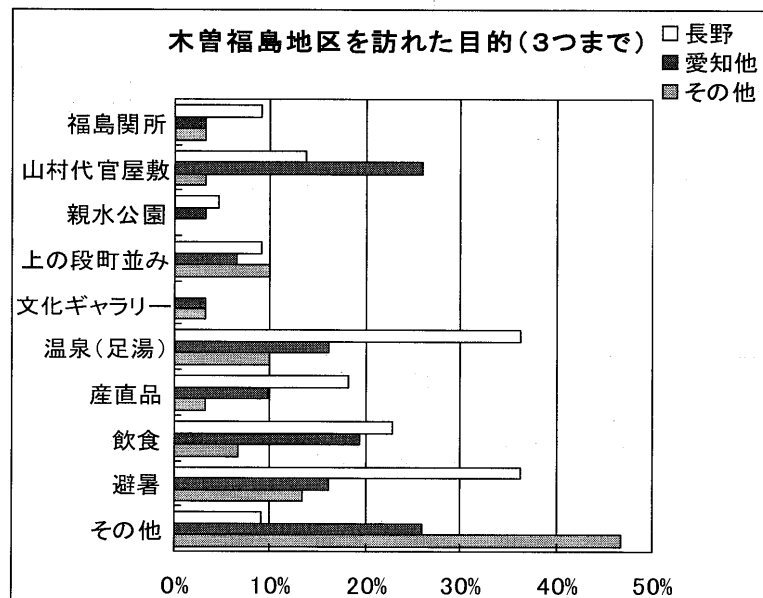


図9. 木曾福島地区を来訪した目的。

木曾福島地区に関する情報収集手段（3つまで選択）は，単純集計では観光パンフ（20人，23.8%）、以前に来た（15人，17.9%）、ガイドブック（14人，16.7%）、口コミ（11人，13.1%）の順であった。

居住地域別の集計結果を図10に示す。長野県内からの来訪者は，以前に来た36.4%（8人），観光パンフレット22.7%（5人），ガイドブック18.2%（4人），口コミ13.6%（3人）の順であった。近隣3県からの来訪者は，以前来た19.4%（6人），観光パンフレット19.4%（6人），インターネット12.9%（4人），ガイドブック12.9%（4人），口コミ12.9%（4人）の順であった。その他都府県からの来訪者は，観光パンフレット30.0%（9人），その他23.3%（7人），ガイドブック20.0%（6人），インターネット13.3%（4人），口コミ13.3%（4人）の順であった。その他の内訳は，親，会社，友人が各1，それ以外の4人は無記入であった。記入されたものはいずれも口コミといってもよい情報である。県内からの来訪者にはインターネット利用者はいなかったが，県外からの来訪者のうち8人はインターネットを利用している。



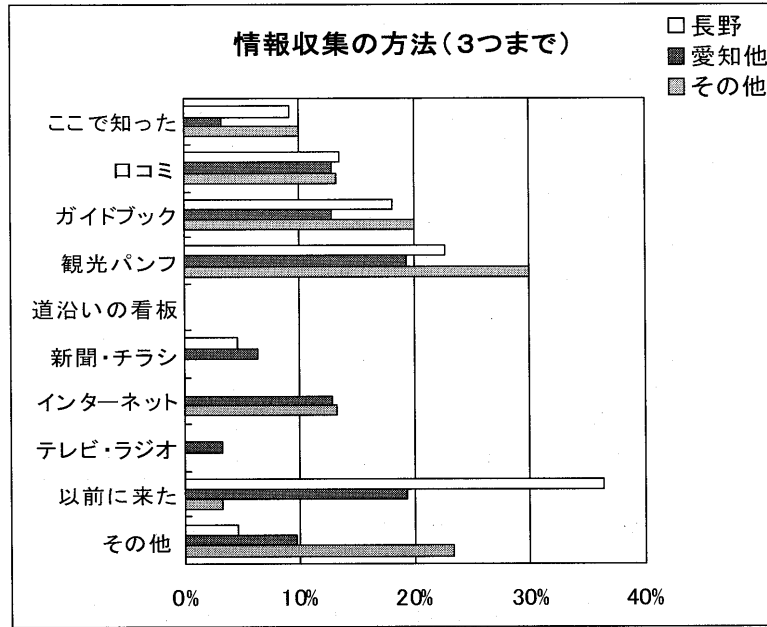


図10. 木曽福島地区の情報収集手段.

この地域で有料で楽しんだこと(3つまで選択)に対する単純集計の結果は、全来訪者84人中、飲食(20人, 23.8%), 温泉(19人, 22.6%), 特産品の購買(13人, 15.5%), 博物・資料館(10人, 11.9%)の順であった。

居住地域別の集計結果を図11に示す。長野県内からの来訪者は、飲食45.5%(10人)、特産品の購買27.3%(6人)、温泉22.7%(5人)で楽しんだことになる。近隣3県からの来訪者は、博物・資料館19.4%(6人)、温泉16.1%(5人)、特産品の購買16.1%(5人)、飲食16.1%(5人)、その他都府県からの来訪者は、温泉30.0%(9人)、飲食16.7%(5人)、宿泊施設16.7%(5人)で楽しんでいる。

近隣3県では博物・資料館、その他都道府県では宿泊施設があげられていて、居住地域による旅行日程の違い(長さ)(図3参照)が楽しみ方に反映している。

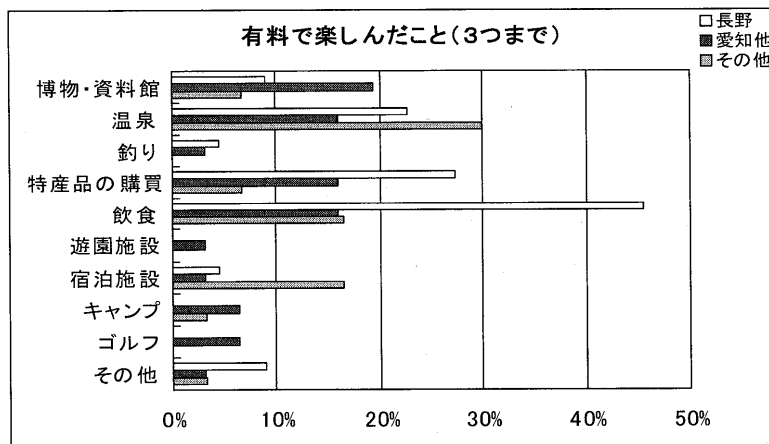


図11. この地域で有料で楽しんだこと.

この地域で無料で楽しんだこと(3つまで選択)は、84人中、自然の風景(28人, 33.3%)が断然トップで、それに避暑(16人, 19.0%), 街歩き(15人, 17.9%)が続いている。

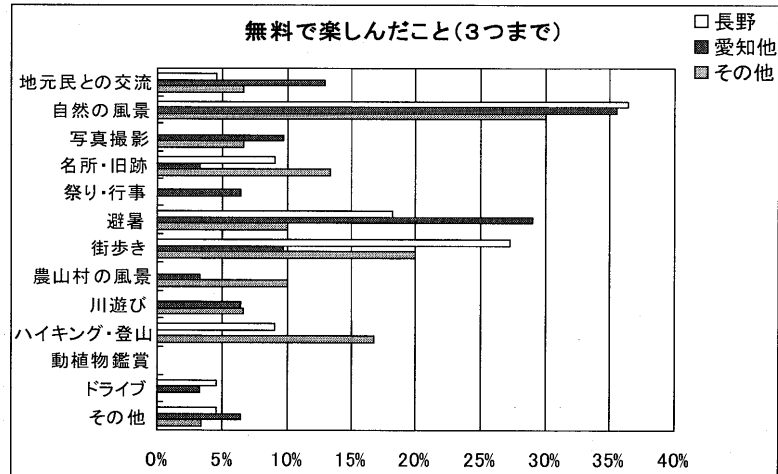


図12. この地域で無料で楽しんだこと.

居住地域別の集計(図12参照)では、長野県からの来訪者は自然の風景36.4%(8人)、街歩き27.3%(6人)、避暑18.2%(4人)の順になっている。近隣3県からの来訪者は、自然の風景35.5%(11人)、避暑29.0%(9人)、地元民との交流12.9%(4人)。その他都府県からの来訪者は、自然の風景30.0%(9人)、街歩き20.0%(6人)、ハイキング・登山16.7%(5人)、名所・旧跡13.3%(4人)と10%を越える項目が4項目あった。

この地域に関するほしい情報を単純集計した結果は、温泉施設(29人、34.5%)、自然にふれあえる場所(21人、25.0%)、食事の楽しめる場所(19人、22.6%)、季節のイベントや催し(15人、17.9%)、農産物直売所(13人、15.5%)、ドライブコース・道路(13人、15.5%)の順であった。

居住地域別に見ると、図13に示すように長野県内からの来訪者は、自然にふれあえる場所36.4%(8人)、食事の楽しめる場所27.3%(6人)、ドライブコース・道路27.3%(6人)、温泉施設22.7%(5人)の順となっている。近隣3県は、温泉施設48.4%(15人)、食事の楽しめる場所29.0%(6人)、季節のイベントや催し19.4%(6人)、農産物直売所12.9%(4人)となっている。その他都府県は、温泉施設30.0%(9人)、自然にふれあえる場所30.0%(9人)、季節のイベントや催し16.7%(5人)、農産物直売所16.7%(5人)の順であった。

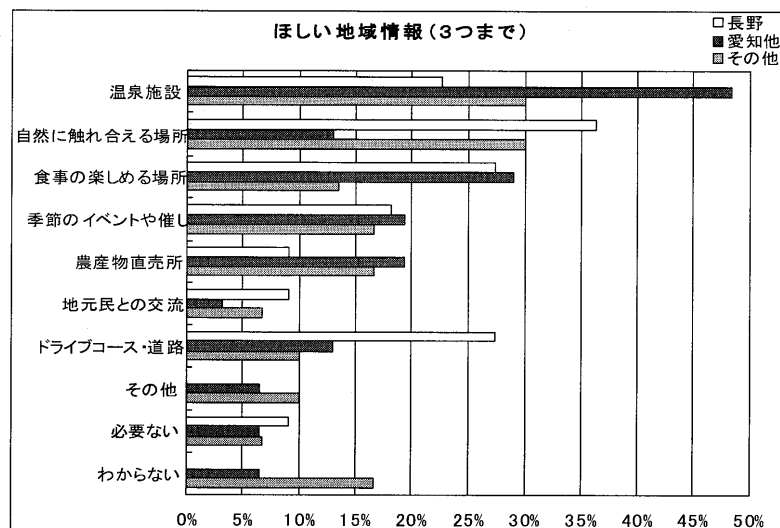


図13. この地域に関するほしい情報.

この地域付近で行ったことがあり、気に入っている場所に対する集計結果（3つまで選択）を図14から図17に示す。

国道361号線沿いにある観光スポットに関して単純集計した結果は、開田高原（27人，32.1%），木曾駒の里（15人，17.9%），きそふくしまスキー場（12人，14.3%）の順であった。暑い時期でもあり開田高原が断然トップであった。

居住地域別に見ると、長野県内からの来訪者は、開田高原22.7%（5人），木曾馬の里22.7%（5人），きそふくしまスキー場18.2%（4人），ふるさと体験館13.6%（3人）の順となっている。近隣3県は、開田高原32.3%（10人），きそふくしまスキー場19.4%（6人），木曾馬の里19.4%（6人），二本木の湯12.9%（4人）となっている。その他都府県は、開田高原32.3%（10人），木曾馬の里19.4%（6人），やまゆり荘13.3%（4人）であった。

どの居住地域からの来訪者でも、開田高原はトップであった。きそふくしまスキー場は、県内だけでなく、近隣3県の居住者にも知られていることがわかる。県外からの来訪者は、二本木の湯ややまゆり荘など宿泊施設もお気に入りの場所にあげている。

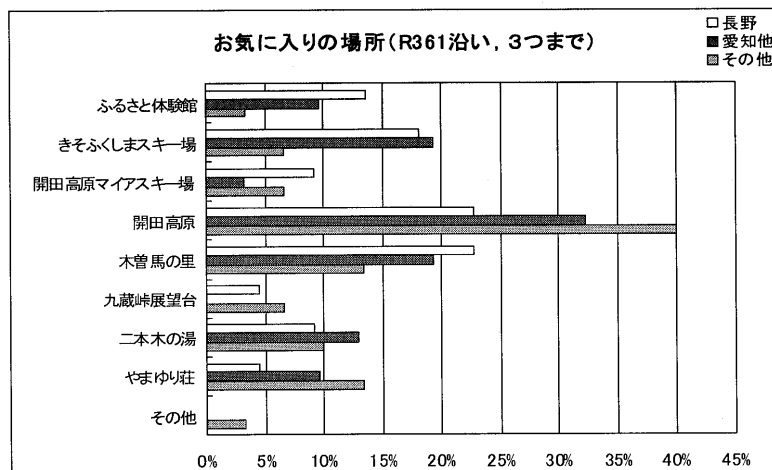


図14. 行ったことがあり、気に入っている場所（R361号線沿い）。

国道19号線沿いの観光スポット（3つまで選択）に関して単純集計した結果は、妻籠宿（20人，23.8%），奈良井宿（18人，21.4%），馬籠宿（15人，17.9%），木曾駒高原（10人，11.9%）の順で、旧宿場町が3位までを占めている。

県内からの来訪者は、奈良井宿27.3%（6人），木曾くらしの工芸館18.2%（4人），贄川関所13.6%（3人），やぶはら高原13.6%（3人），平沢漆器13.6%（3人）の順であった。一般にはよく知られている妻籠宿や馬籠宿はいずれも9.1%（2人）と県内の人はあまり訪れていない。

近隣3県は、妻籠宿32.3%（10人），馬籠宿32.3%（10人），やぶはらスキー場19.4%（6人），奈良井宿19.4%（6人），木曾駒高原12.9%（4人）となっている。

その他都府県は、妻籠宿32.3%（10人），奈良井宿27.3%（6人），馬籠宿32.3%（10人），木曾駒高原32.3%（10人），赤沢自然休養林19.4%（6人）。

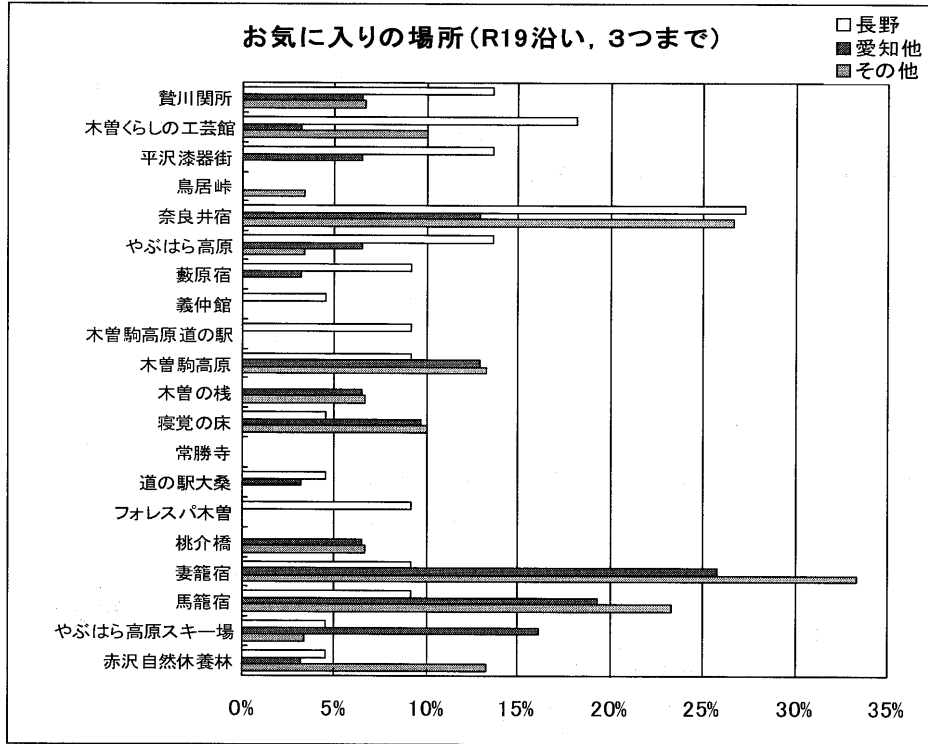


図15. 行ったことがあり、気に入っている場所 (R19号線沿い).

その他の観光スポット (3つまで選択) では、御嶽山 (22人, 26.2%) と御岳ロープウェイ (17人, 20.2%) が単純集計で10%を超えている。長野県は御嶽山と道の駅三岳がともに18.2% (4人) でトップ、近隣3県は御岳ロープウェイ32.3% (10人), 御嶽山22.6% (7人) の次におんたけスキー場16.1% (5人) が入っている。その他都府県は、御嶽山36.7% (11人) について、御岳ロープウェイ、木曾駒ヶ岳がともに13.3% (4人) を占めている。

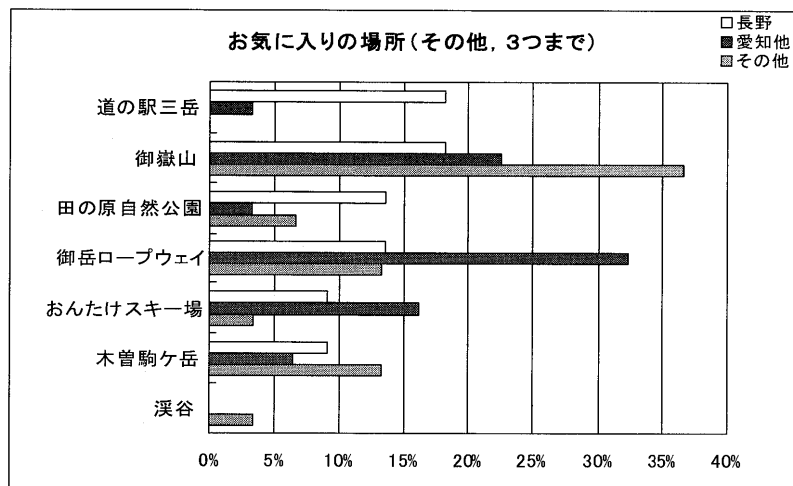


図16. 行ったことがあり、気に入っている場所 (その他木曾福島町内).

旅費と宿泊費を除く旅行の一人当たりの予算を図17に示す。長野県内からの来訪者は日帰り、近隣3県からの来訪者とその他都府県からの来訪者は宿泊を伴う割合が高い。さらに、その他の方

が近隣3県よりも連博する比率が高い。これらの旅行日程を反映して、長野県内、近隣3県、その他都府県の順に、旅行予算が増加している。

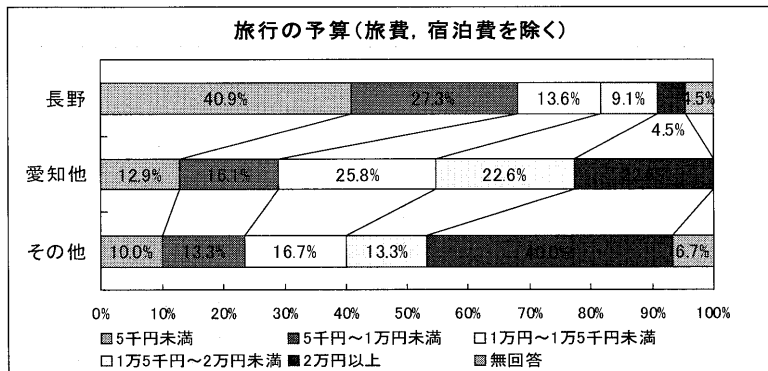


図17. 旅費, 宿泊費を除いた旅行の予算.

旅費と宿泊費を除く旅行の一人当たりの予算の中に含まれる、自分へのお土産代の集計結果を図18に示す。県外からの来訪者は、2千円未満40.0% (18人)、2千円以上4千円未満22.2% (10人)と4千円未満が62.2%を占めている。4千円以上は33.3% (15人)ある。

一方、県内からの来訪者は、2千円未満54.8% (17人)、2千円以上4千円未満19.4% (6人)と4千円未満が74.2%を占めている。4千円以上は6.4% (2人)に留まっている。

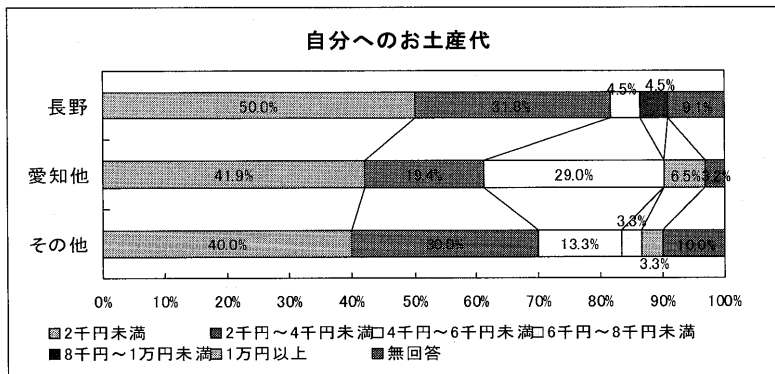


図18. 自分へのお土産代.

木曾路の印象を図19に示す。どの地域からの来訪者も、木曾路に対する印象はよい。

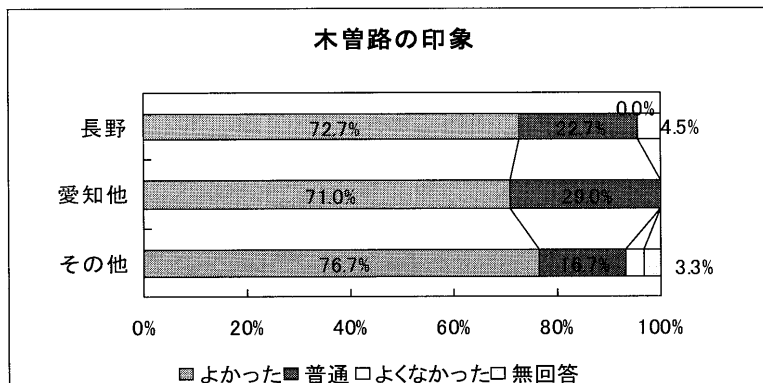


図19. 木曾路の印象.

木曽福島町にまた来たいかという問いに関する結果を図20に示す。どの居住地域からの来訪者も、是非来たいと機会があれば来たいを合計すると86%以上となり、木曽福島地区には好印象を持っている。

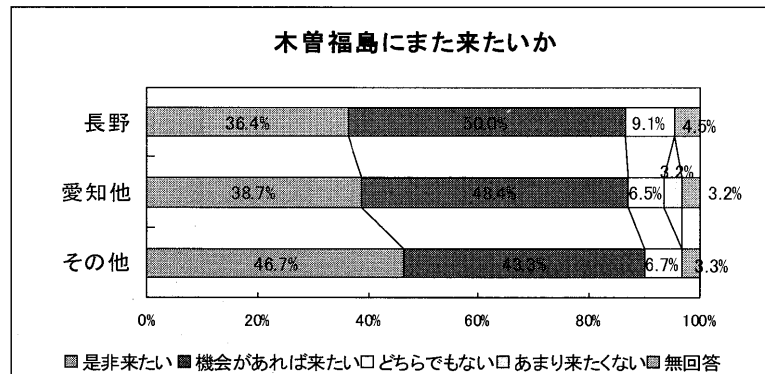


図20. 木曽福島町にまた来たいか。

### 3. まとめ

木曽福島町を来訪した方に対するアンケート調査の結果を、長野県、近隣3県（愛知、静岡、岐阜）、その他都道府県からの来訪者の3つの居住地域に分けて集計・分析した。

前回は御輿まくりの最終日（クライマックス）に調査を行ったことで、長野県外からの来訪者の48.9%が10回以上、63.2%が6回以上であった。一方、はじめての方が22.2%であった。

今回の調査では、10回以上は近隣3県で19.4%（6回以上22.6%）、その他都道府県で20.0%（6回以上20.0%）と、前回の1/2以下であった。その分、初めて来訪した方は、近隣3県29.0%、その他都道府県40.0%と前回よりも平均すると10ポイント以上上昇している。県外からの来訪者の中では、6回以上のリピータよりも新規来訪者の方が多く、県外の1/3強を占めている。

来訪者の年齢層は、長野県内は30歳代、近隣3県は40歳代、その他都道府県は50歳代の比率が最も高く、長野県から遠くなるほど年齢層があがっている。また、それにつれて旅行日程も長くなる傾向にある。年齢層の高い人の方が自由時間を取りやすいことを示唆している。

お気に入りの場所に関する前回の調査（いくつでも可）では、スキー場は国道361号線沿いの観光スポットの中にしか入れてなかった。しかも、スキー場名は記入式になっていて、記入例がなかった。スキー場は長野県内からの来訪者では開田高原に次いで、木曽駒の里と同率2位、県外からの来訪者では、開田高原、木曽駒の里に続いて、九蔵展望台、やまゆり荘と同率3位であったが、どこのスキー場かははっきりしなかった。

今回の調査（3つまで選択）では、国道361号線沿い、国道19号線沿い、その他の3つの地域におけるスキー場名を選択肢の中に明示した。そして、クロス集計を取ることによって、どの居住地域からの来訪者がどのスキー場を気に入っているかがある程度明らかになった。

国道361号線沿いの観光スポットでは、きそふくしまスキー場が長野県内からの来訪者のみでなく、近隣3県からの来訪者にもなじみがあることがわかった。

国道19号線沿いのお気に入りの場所では、近隣3県からの来訪者は、今回新たに追加した「やぶはら高原スキー場」を3位にあげている。また、その他都道府県からの来訪者は、今回追加した「赤沢自然休養林」を5位にあげている。

その他のお気に入りの場所でも、近隣3県からの来訪者はおんたけスキー場を第3位にあげている。

以上のことから、近隣3県（愛知，静岡，岐阜）に居住されている方は，きそふくしまスキー場，やぶはら高原スキー場，おんたけスキー場を好んで訪れていることがわかる．今回の調査では開田高原マイアスキー場は上記の3スキー場と比較するとまだなじみが薄いようだ．

今回の調査では，権兵衛トンネルの利用状況を調べることも目的の1つであった．そして，マイカー，観光バス，自転車，バイクなどの交通手段を使って，権兵衛トンネルを通して木曾福島地区を訪れていることがわかった．近隣3県からの来訪者は，愛知県からが多いこともあって，権兵衛トンネルの往路利用者は16.5%と低めだが，長野県からの来訪者は45.5%，その他都道府県の30.0%が行きに権兵衛トンネルを利用して木曾福島地区を訪れている．

また，前回（2005年）の調査では，回答者のいなかった木曾谷からの来訪者も権兵衛トンネルを通して2人あった．さらにこの2人は帰路にも権兵衛トンネルを利用する予定でいることがわかった．今回の少ない票数からも，権兵衛トンネルが開通したことによって，来訪者の行動半径が広がりつつあることが伺える．

この調査に参加した学生は，当時松本大学総合経営学部3年生の柄澤美帆，小林幸司，田上純也，林弘樹，福岡雄介，降旗哲也，松野幸平，村上寿枝，百瀬慶一，山本星一（以上9名），2年生の岩下一茂，岩原俊行，落合卓矢，小泉友弘，諏訪坂光，矢ヶ崎慎也，山口達也（以上7名）であった．

## 謝辞

この調査を行う際に木曾町まちづくり推進課の方々に協力をして頂いた．この場を借りて感謝いたします．

## アンケート調査（木曾町を訪れた方対象）

□Q1 お住まい（ご自宅）はどちらですか

①都道府県 1)長野県 2)愛知県 3)岐阜県 4)静岡県 5)その他( ) 都・道・府・県)  
 ②市町村 ( ) 市・町・村)

□Q2 ①性別と②年齢を教えてください

①性別 1)男 2)女  
 ②年齢 1)20歳未満 2)20歳代 3)30歳代 4)40歳代 5)50歳代  
 6)60歳代 7)70歳以上

□Q3 ①今回の旅行日程、②今日はその何日目か、③本日の最終目的地を教えてください

①1) 日帰り 2) 1泊2日 3) 2泊3日 4) 3泊4日 5) 4泊5日以上  
 ② ( ) 日目

③最終目的地 ( )

□Q4 現在地で何時間ぐらい過ごされますか

1) 1時間未満 2) 1時間以上～2時間未満 3) 2時間以上～3時間未満  
 4) 3時間以上～4時間未満 5) 4時間以上

□Q5 どなたと旅行されていますか

1)単独 2)友人知人 3)家族(子連れ) 4)家族(大人のみ) 5)夫婦  
 6)カップル(未婚) 7)職場団体 8)ツアー団体 9)その他( )

□Q6 主な交通手段は何ですか

1)マイカー 2)バイク 3)自転車 4)観光バス 5)鉄道(JR) 6)中央高速バス  
 7)その他( )

□Q7 今回の旅行で権兵衛トンネルを利用されるかおたずねします

①権兵衛トンネルを通ってきましたか 1) はい 2) いいえ  
 ②権兵衛トンネルをこれから通る予定ですか 1) はい 2) いいえ

□Q8 木曾福島に今までに何回来たことがありますか

1)はじめて 2)2回目 3)3～5回目 4)6～9回目 5)10回以上

□Q9 木曾福島に来た目的は何ですか（3つまで選んでください）

1)福島関所 2)山村代官屋敷 3)木曾川八沢川親水公園 4)上の段の街並み  
 5)木曾路文化ギャラリー 6)温泉(足湯につかる) 7)産地直売品・おみやげ  
 8)飲食 9)避暑 10)その他( )

□Q10 どこで木曾福島町の情報を集めましたか（3つまで）

1)ここに来てはじめて知った 2)口コミ 3)ガイドブック 4)観光パンフ 5)道沿いの看板  
 6)新聞・チラシ 7)インターネット 8)テレビ・ラジオ 9)以前来た 10)その他( )

□Q11 今回この地域で楽しんだこと、良い印象を持った所を教えてください（それぞれ3つまで）

有料	1)博物・資料館 2)温泉 3)釣り 4)特産品の購買 5)飲食 6)遊園施設 7)宿泊施設 8)キャンプ 9)ゴルフ 10)その他( )
無料	10)地元民との交流 11)自然の風景 12)写真撮影 13)名所・旧跡 14)祭・行事 15)避暑 16)町歩き 17)農山村の風景 18)川遊び 19)ハイキング・登山 20)動植物観賞 21)ドライブ 22)その他( )



松本大学 鈴木ゼミ 2006.8

調査時刻： _____ 時 _____ 分 調査員ペア氏名： _____	<input type="checkbox"/> 入力用チェック1	
	<input type="checkbox"/> 入力用チェック2	

Q12 今後この地域のどんな地域情報がほしいですか（3つまで選んでください）

- |   |
|---|
| 1)温泉施設 2)自然にふれあえる場所 3)食事の楽しめる場所 4)季節のイベントや催し<br>5)農産物直売所 6)地元民との交流 7)ドライブコース・道路 8)その他（ _____ ）<br>9)必要ない 10)わからない |
|---|

Q13 この地域周辺で今まで行ったことがあり、気に入っている場所に○をつけてください。

①R361号線（3つまで） 1)ふるさと体験館きそふくしま 2)きそふくしまスキー場 3)開田高原マイアスキー場 4)開田高原 5)木曾馬の里 6)九蔵峠展望台 7)二本木の湯 8)やまゆり荘 9)その他（ _____ ）
②R19号線（5つまで） 1)贄川関所 2)木曾くらしの工芸館（道の駅ならかわ） 3)平沢漆器街 4)鳥居峠 5)奈良井宿 6)やぶはら高原（こだまの森） 7)蕨原宿 8)義仲館 9)日義木曾駒高原道の駅 10)木曾駒高原 11)木曾の棧 12)寢覚の床 13)定勝寺 14)道の駅大桑（木楽舎） 15)フォレスパ木曾 16)桃介橋 17)妻籠宿 18)馬籠宿（藤村記念館） 19)やぶはら高原スキー場 20)赤沢自然休養林
③その他（3つまで） 1)道の駅三岳 2)御岳山 3)田の原天然公園 4)御岳ロープウェイ 5)おんたけスキー場 6)木曾駒ヶ岳 7)溪谷（ _____ ）

Q14a 今回の旅行で（旅費、宿泊費を除く）予算は1人当たり大体いくらですか

1) 5千円未満      2) 5千円～1万円未満      3) 1万円～1万5千円未満 4) 1万5千円～2万円未満      5) 2万円以上
--

Q14b そのうち、ご自分へのお土産代はいくらくらいですか

1) 2千円未満      2) 2千円～4千円未満      3) 4千円～6千円未満 4) 6千円～8千円未満      5) 8千円～1万円未満      6) 1万円以上
--

Q15 木曾路の印象はいかがですか

1)良かった 2)普通 3)良くなかった（期待はずれ）→理由（ _____ ）
---

Q16 あなたは、また現在地（木曾福島）に来たいと思いますか

1)ぜひ来たい 2)機会があれば来たい 3)どちらでもない 4)あまり来たくない 5)二度と来ない
--

このアンケート調査の結果は木曾地域の振興に皆様のご意見を反映するために行うものです。  
その目的以外には使用いたしません。

ご協力ありがとうございました。